

## 一部に弱い動きがみられる中、 個人消費支出物価指数の前年比 伸び率は横ばい



### 米国経済

- 8月のISM非製造業景況指数はほぼ横ばいとなり、米国経済は緩やかに回復している。8月の非農業部門雇用者数が事前予想を下回った一方、賃金の伸びが加速しており、強弱が混じる結果となった。雇用は減速基調にあるものの、急激な悪化は回避されていると考えられる。
- 7月は、個人消費が底堅く推移した一方、設備投資は鈍化した。鋳工業生産や住宅着工は低迷した。
- 7月の個人消費物価指数は、前年比伸び率が前月から変わらずとなった。8月にパウエルFRB議長は、9月17～18日に開催される連邦公開市場委員会(FOMC)で利下げを実施することを示唆した。米国経済は一部に弱い動きがみられるものの、現状では景気の失速懸念やディスインフレの加速を裏付ける材料は見当たらない。9月の利下げ幅は0.25%となり、0.5%の大幅な利下げは見送られる可能性が高いと考えられる。

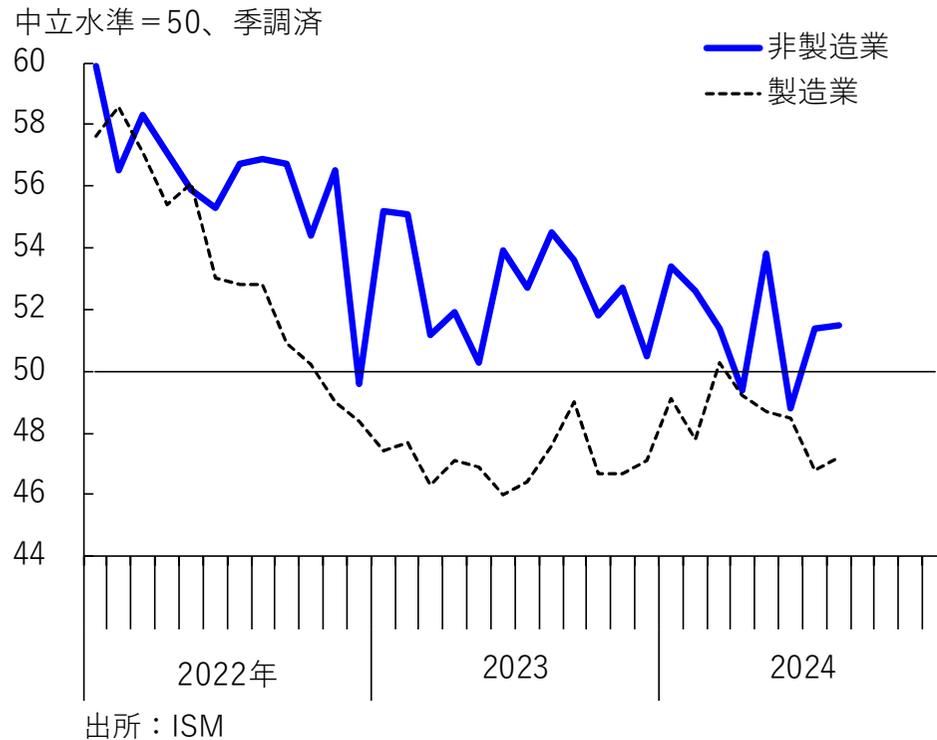
本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願いいたします。



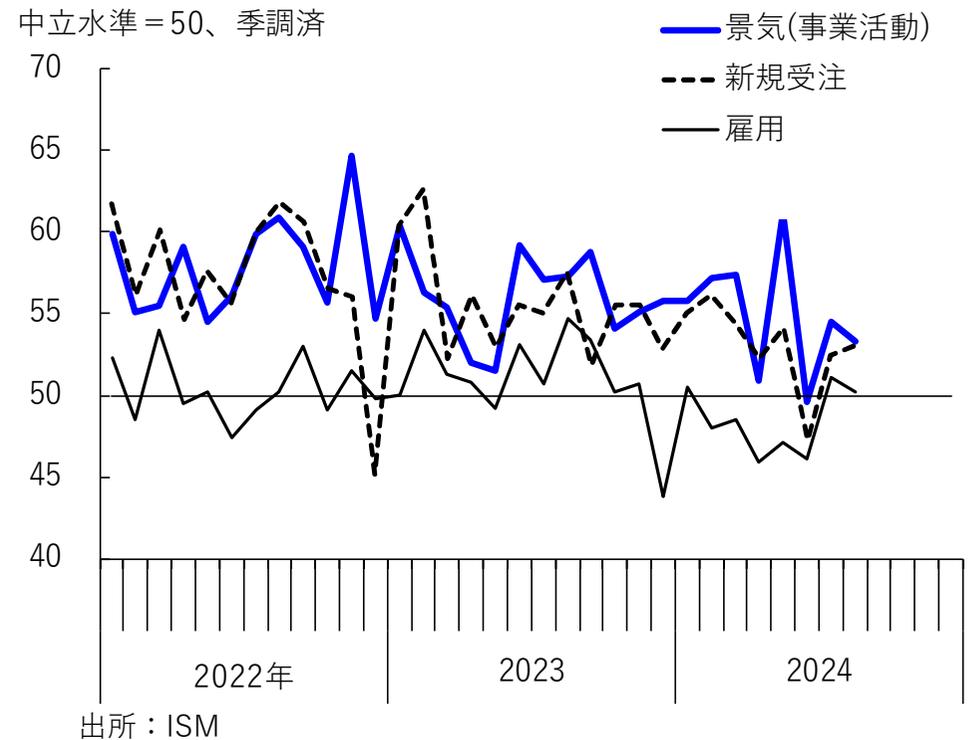


- 8月のISM（米供給管理協会）の非製造業景況指数は51.5と、前月の51.4からほぼ横ばいとなった。好不調の判断基準となる50を上回っており、緩やかな回復基調が続いている。一方、製造業の景況指数は47.2となり、前月の46.8から上昇したものの、5か月連続で50割れとなった。
- 8月の非製造業景況指数の主要な内訳の指数をみると、新規受注指数が改善したものの、事業活動を示す景気指数や雇用指数が低下した。

ISM景況指数



非製造業ISM景況指数の主要な内訳の指数

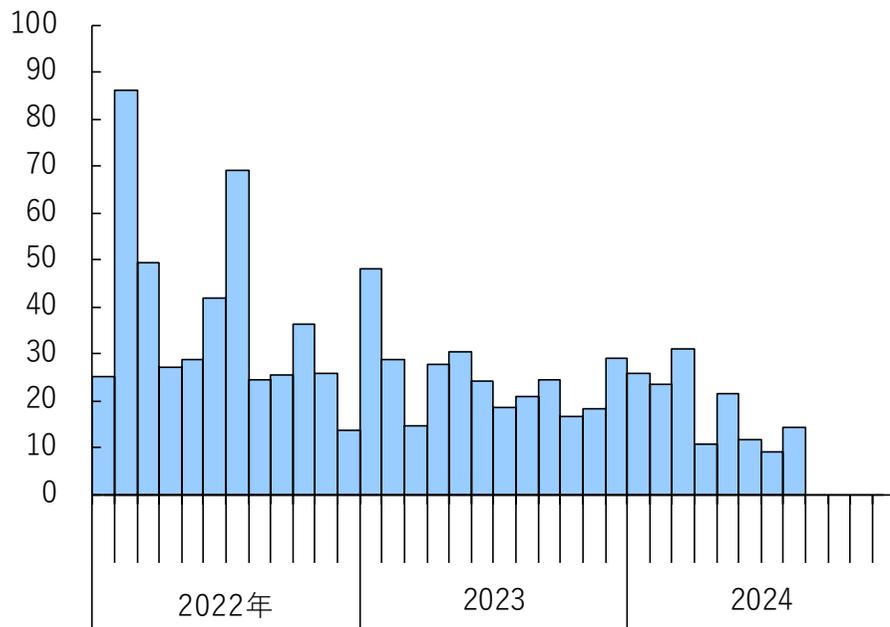




- 8月の雇用統計は、強弱が混じる結果となった。非農業部門雇用者数は前月比14.2万人の増加と、7月の同8.9万人増を上回ったものの、市場の事前予想を下回った。6月と7月分は下方修正され、雇用の伸びが基調的に鈍化していることを示した。
  - －業種別にみると、建設や医療関連の雇用が増加した一方、製造業や小売業の雇用が減少した。
- 8月の時間当たり平均賃金は前月比+0.4%と前月の同+0.2%から加速した。8月の前年比も+3.8%と、7月の+3.6%から伸びが上昇した。失業率は4.2%となり、7月の4.3%から若干低下した。
  - －賃金は堅調に増加しており、失業率の上昇が一服したことは、雇用の急激な悪化が回避されていることを示唆している。

非農業部門雇用者数

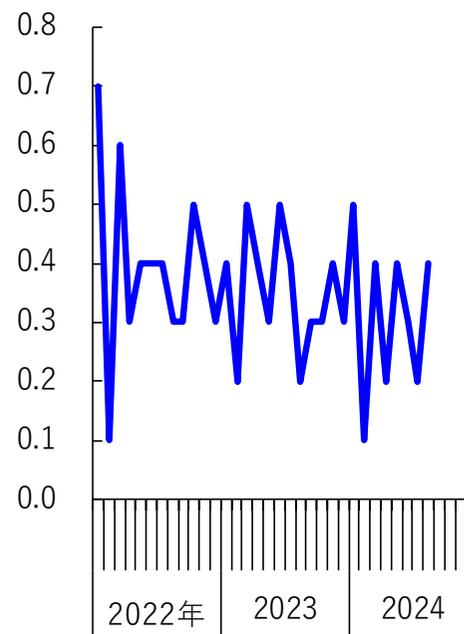
前月差、万人、季調済



出所：米労働省

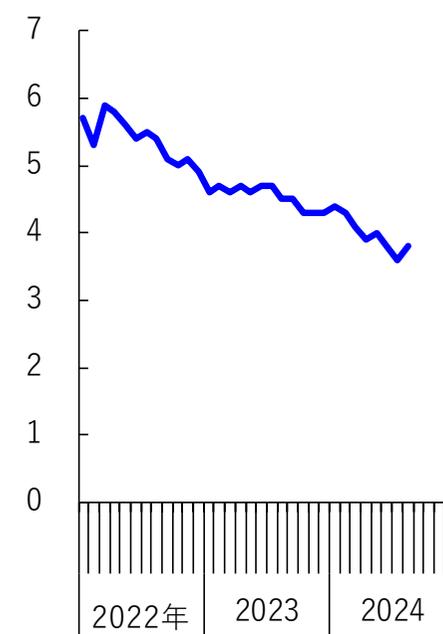
時間当たり平均賃金

前月比、%。季調済



出所：米労働省

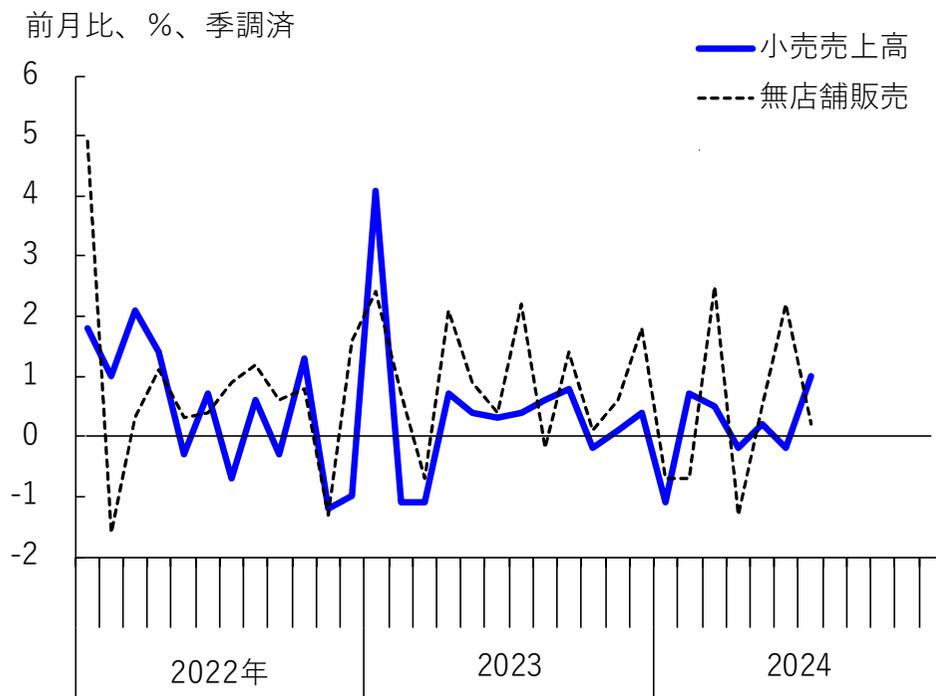
前年比、%





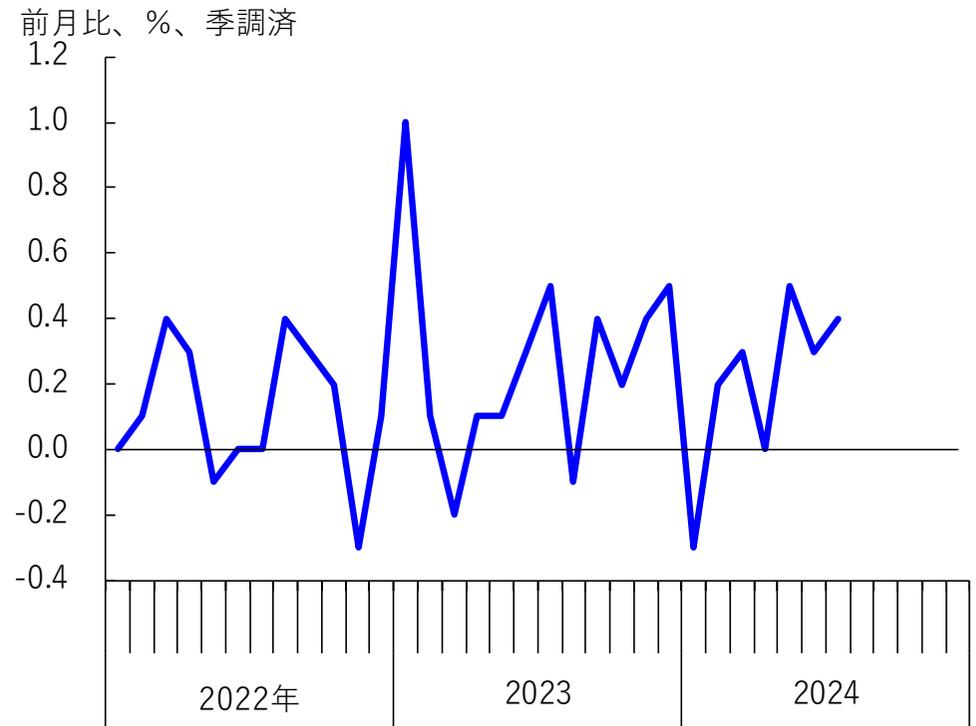
- 7月の小売売上高は、事前予想を上回る前月比+1.0%となり、個人消費が底堅く推移していることを示した。
  - 6月に同+2.2%と大幅に増加したネット通販などの無店舗販売は同+0.2%とプラスの伸びを維持した。一方、自動車・部品は同+3.6%と前月の同-3.4%から持ち直した。
- 7月の実質個人消費は、前月比+0.4%と、前月の同+0.3%から伸びが加速した。
  - サービス消費は前月比+0.2%にとどまったものの、耐久消費財が同+1.7%と大幅に増加したため、財の消費は同+0.7%となった。

小売売上高



出所：米商務省

実質個人消費

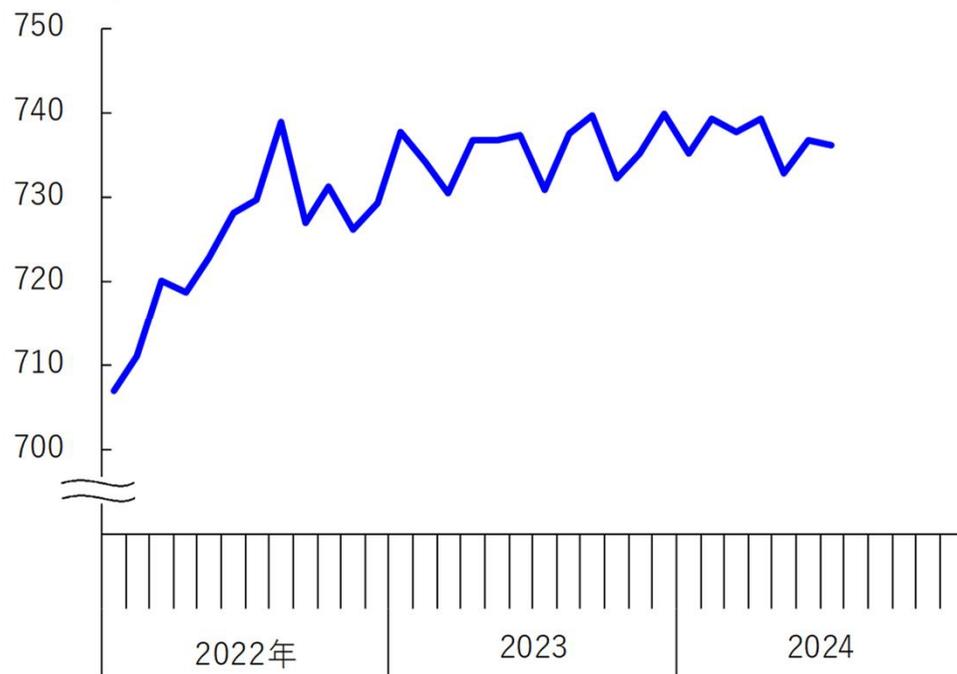


出所：米商務省

- 7月のコア耐久財受注（航空機を除く非国防資本財）は前月比-0.1%と、前月の同+0.6%から減少に転じた。
  - －6月分は下方修正されており、設備投資は鈍化しつつある。
- 7月の企業による建設支出は前月比-0.4%と減少した。企業の建設投資は頭打ちとなっている。
  - －製造業の建設支出は前月比+0.1%と増加基調が続いているものの、非製造業は同-0.6%と8か月連続で減少した。

コア耐久財受注（航空機を除く非国防資本財）

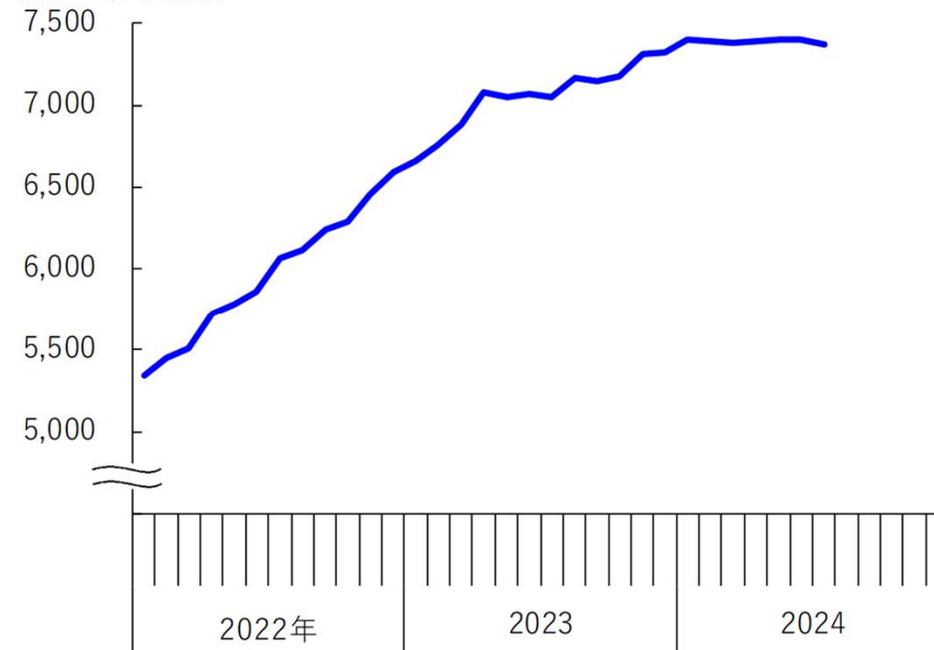
億ドル、季調済



出所：米商務省

企業の建設支出  
(民間非住宅部門の建設支出)

億ドル、季調済

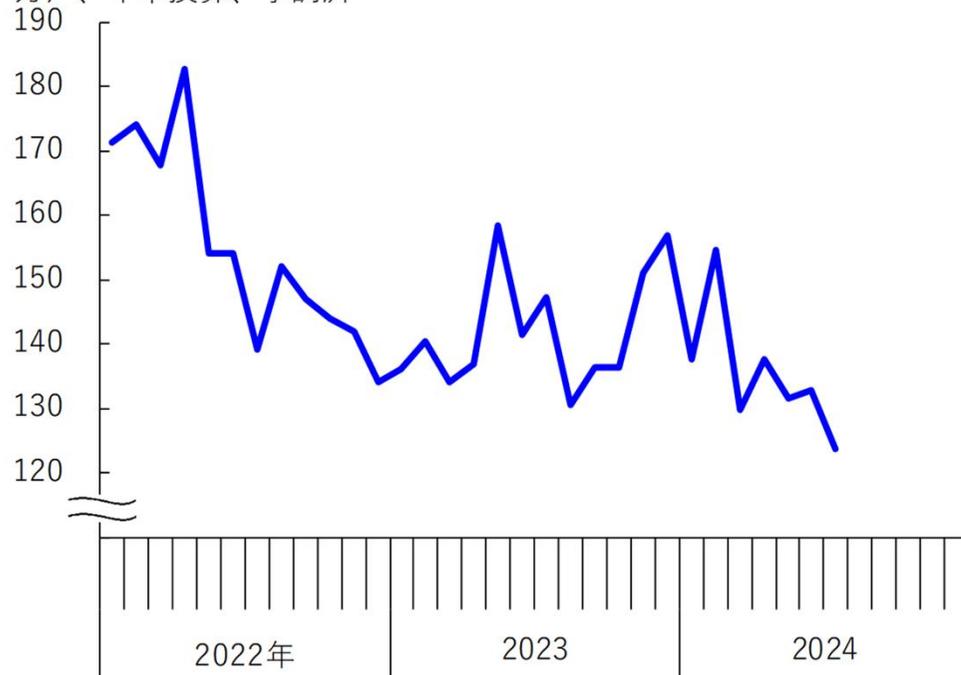


出所：米商務省

- 7月の住宅着工件数(年率換算)は123.8万戸、前月比-6.8%と大幅に減少した。
  - 7月は、南部テキサス州などを襲ったハリケーンにより、住宅建設に悪影響が発生した。住宅着工は、一時的な要因の影響で下振れしたと考えられる。
- 7月の新築住宅販売戸数(年率換算)は73.9万戸、前月比+10.6%と、2023年5月以来の高水準となった。
  - 利下げ観測の強まりを背景とした長期金利の低下の影響で、住宅ローン金利も低下傾向にあり、住宅販売を後押ししたとみられる。

住宅着工件数

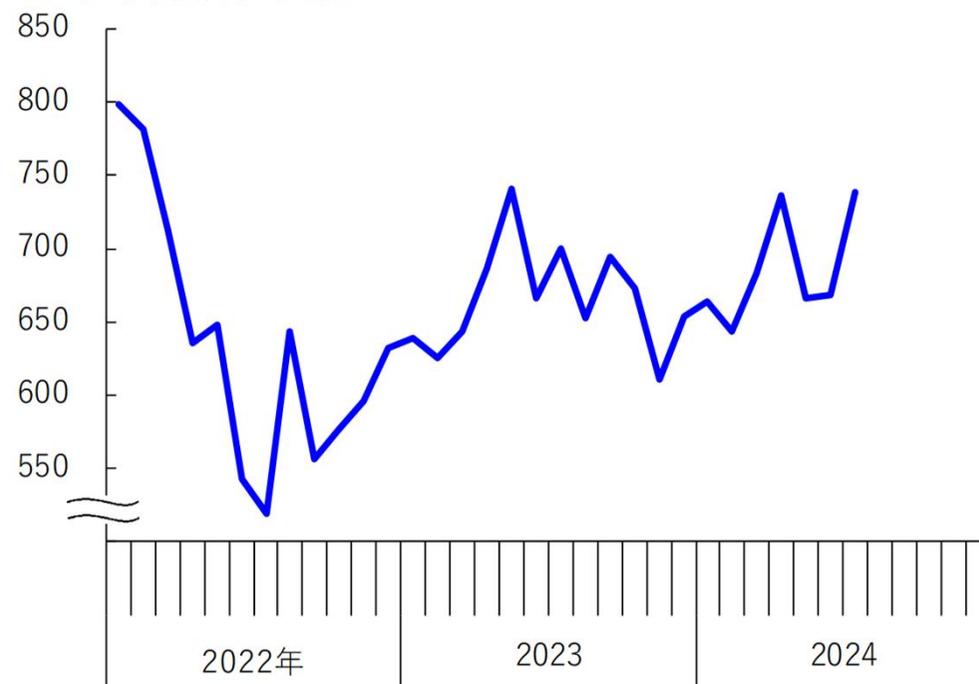
万戸、年率換算、季調済



出所：米商務省

新築住宅販売戸数

千戸、年率換算、季調済



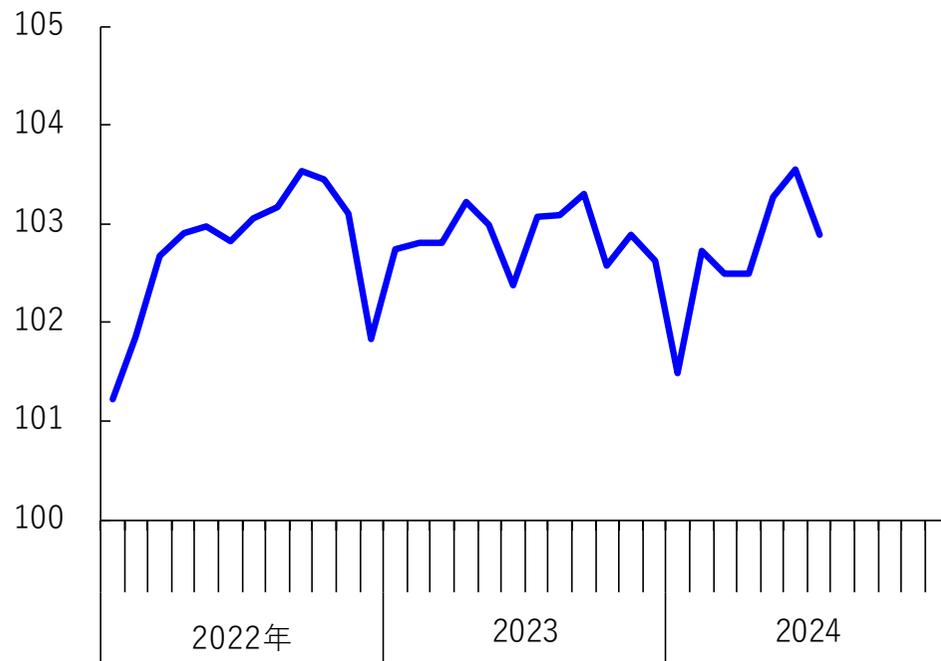
出所：米商務省



- 7月の鉱工業生産指数は前月比-0.6%と、低下に転じた。生産活動はやや弱含みとなっている。
  - ー自動車・部品の生産が前月比-7.8%と大きく落ち込んだことなどから、製造業の指数は同-0.3%と低下した。
- 7月の貿易収支赤字額は788億ドル、前月比+7.9%と、2022年6月以来の高水準となった。
  - ー大統領選後の関税の引き上げや、米東海岸での港湾労働者によるストライキに備え、米企業が在庫の確保を急いだ結果、財の輸入が前月比+2.3%と増加したことが貿易赤字を押し上げる要因となった。

鉱工業生産指数

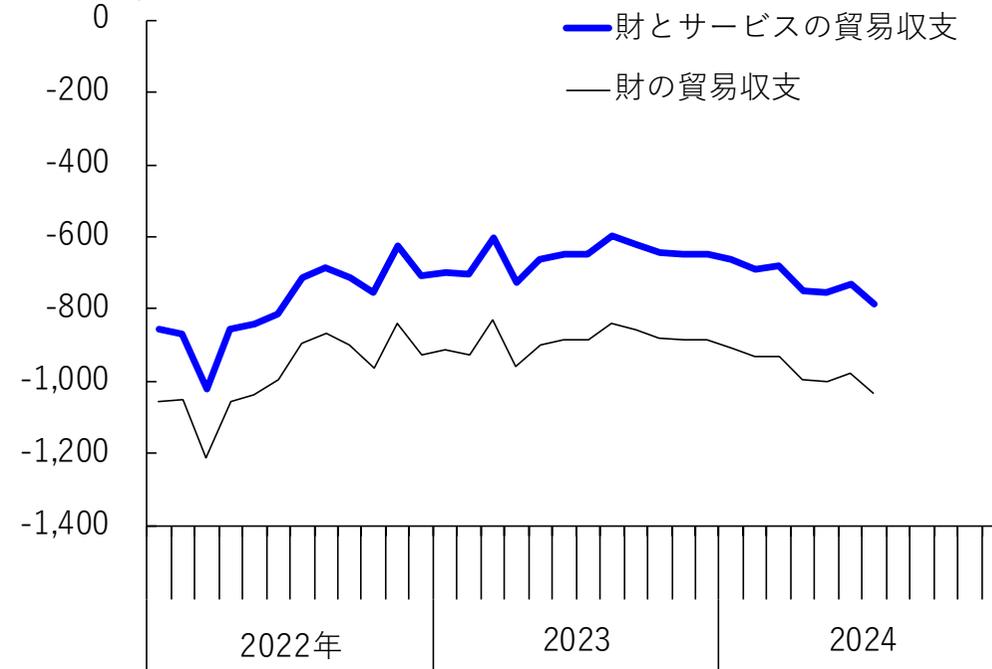
2017年=100、季調済



出所：F R B

貿易収支

億ドル、季調済



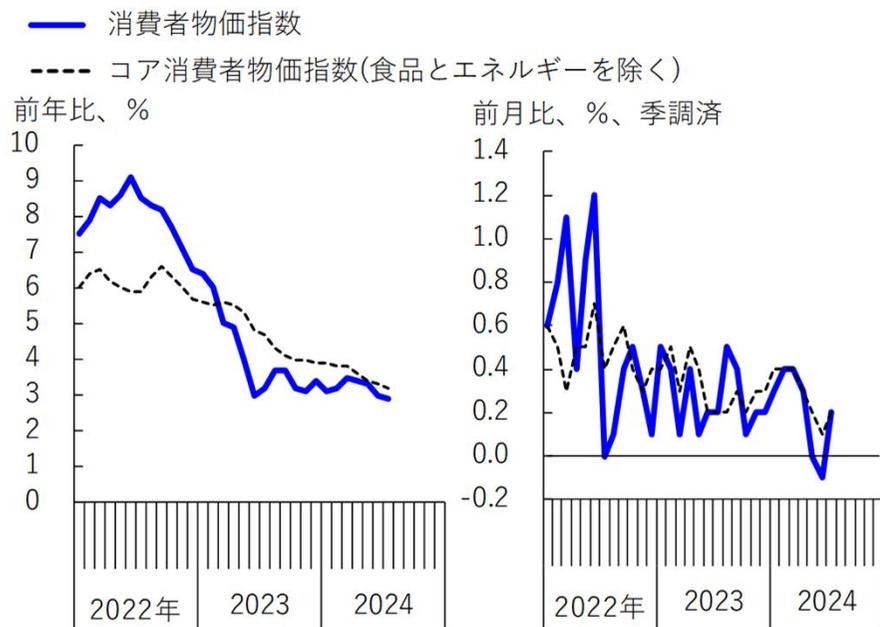
出所：米商務省



- 7月の消費者物価指数は前年比+2.9%と、前月の同+3.0%から上昇率が低下した。変動の大きい食品とエネルギーを除いたコア指数も同+3.2%と、前月の同+3.3%から伸びが低下した。前月比では全体の指数が+0.2%（6月は-0.1%）、コア指数が+0.2%（6月は+0.1%）と伸びが上昇した。

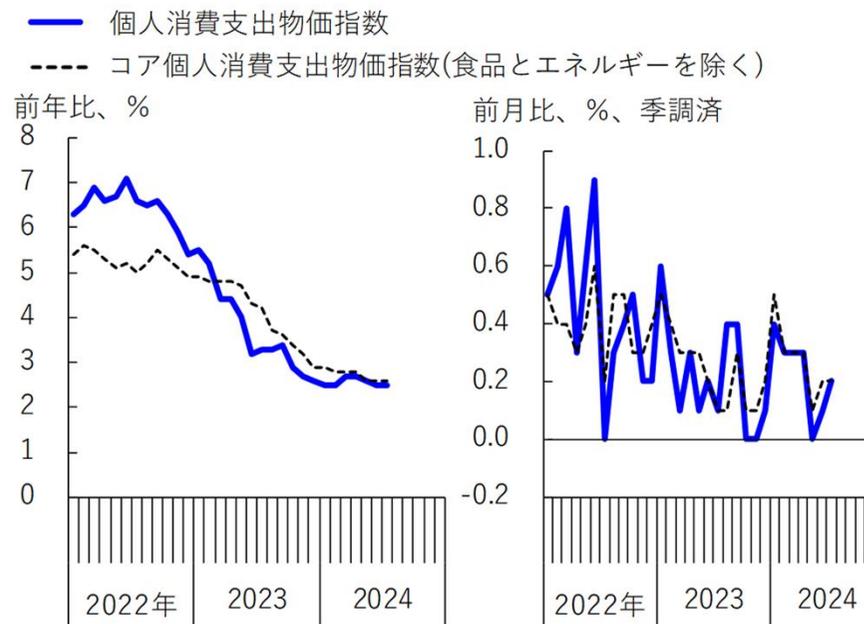
－7月は住宅費が前月比+0.4%と、6月の同+0.2%から上昇した。ディスインフレの傾向は続いているものの、大幅な利下げが可能となるほど物価の減速は進ちょくしていない。
- 7月の個人消費支出（PCE）物価指数は前年比+2.5%と、前月の上昇率から変わらずとなった。食品とエネルギーを除いたコア指数も同+2.6%と、前月から上昇率が横ばいとなった。PCE物価指数は前月比では+0.2%となり、6月の同+0.1%から伸びが上昇した。

消費者物価指数



出所：米労働省

個人消費支出（PCE）物価指数



注：個人消費支出物価指数は、個人消費支出の名目値を実質値で割って算出される。

出所：米商務省



## 浜銀総合研究所



2024年9月11日  
調査部 特任研究員  
金子 修

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 [https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry\\_repo.html?nno=5](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5)